

2016/10/1

しろひげ@Kurobane です。

10月になりました。

出羽三山という神宿る結界は、自然災害が入り込むことすら許さないのでしょうか、ここ庄内の野は、秋の長雨にさらされることもなく、今年も豊饒な実りに輝いています。

新米もまた艸の実の匂いかな 蕪村

イネ科の一年草の実は、「つや姫」などという雅な名に変えて、そろそろ店先に並び始めました。

食卓にこの実の匂いがみちてくれば、黄金色の稲田はどんどん茶色のもとの土にもどり、私たちの心も秋気に染まっていくのでしょうか。

そんな収穫の秋ですが、今年は私に大きな決断を促す多望の秋となりました。

10月いっぱい、開業医というキャリアにピリオドを打ち、新たな営みに向けて歩を進めることにしました。

昭和61年9月19日 — 「安保法成立」の日と重なってしまったことは、かえすがえす残念ですが — の開業から30年、来年の1月で70歳になるのを機に、未知なるピッチに立ちキックオフをすることにしました。

9月のアナウンスメント以来、驚き、戸惑い、はては泣いてしまうほどに悲嘆する患者を説得し、紹介状を書く日々が続いています。

ものごとを終えることは、始める以上にエネルギーが必要とされることを痛感させられ、心の奥に澱のようにたまっていく哀しみに似た疲労が私をさいなませます。

しかし、これもあと数週間、ノーサイドのホイッスルが鳴れば、互いの健闘をたたえ合うことができるでしょう。

というわけで、開業医としての日々から生まれた感慨や、五感を震わせる季節の移ろいを書き、送り続けたこの「月々の通信」も、これを最後とします。

思い起こせば、当地区医師会のIT活性化の協力を依頼されて配信を始めたのが、2000年の4月からでした。

この間、ネット空間が作る井戸端コミュニケーションを通じて、友だちの輪を広げ、友好を深めることができました。

さらには、10年分のものをまとめ、『空を仰ぎ 風にふかれて』(2013年 ライトハウスパブリケーション)を上梓することも叶いました。

これまで、この「しろひげ村」からの月々の回覧板に、共感や感想をお寄せいただいたことを心から感謝申し上げます。

最後の配信となったせいか、いささか長文になってしまいましたが、チェコの作家カレル・チャペック(1890～1938) — 彼は優れた園芸家でもありました — の言葉で締めさせていただきます。

『一年の始まりは秋だ』

秋に木々が枯れるのは見せかけで、本当は翌春ひろげて伸ばすものをぴったりにため込んでいる、ということです。

私にとっても、いや皆さんにとっても、この秋が何かの始まりであることを祈っております。

P.S. 朝井リョウの直木賞作品『桐島、部活やめるってよ』のパロディ、『黒羽根、開業やめるってよ』という本が発行される日をご期待ください。

(こんなうちもないことで、私の元気ぶりを示すことになればと願っています。)

黒羽根整形外科
黒羽根洋司